

ボディコート・ジャパン

熱処理の「社内外注」開拓

内製部門を買収へ

企業
合理化支援
の
受託で
継続加工

熱処理受託加工世界最大手、英国ボディコート・ジャパン(本社名古屋市中区、ユリアン・ベイシヨア社長、電話052・912・5518)は、製造業などが抱える熱処理事業を取得した上で継続して受託加工にあたる「社内外注」の案件開拓に乗り出した。企業の合理化を支援する一方、外部の仕事も取り込み収益確保につなげる。展開形態を多様化し、国内事業を加速する狙いだ。(岩崎幸一)

国内の熱処理加工の投資効率が低い面がうち、およそ九割は製

造業などの内製で、残

る一割を専門業者が手

がけている。内製では

物流費低減や納期短縮

が図れるものの、「稼

働は一週間のうち二、

三日程度」が多く、近

代設備が求められる割

に投資効率が低い面が、空いた時間を活用し、日本では航などの分野を開拓して社外業務もこなす。設備の二十四時間稼働を目指す。

案件開拓のターゲットは①技術力が高い②稼働率が低い③外注しにくい大物加工などが手がけられる「設備な

ど。取得後は設備投資や技術導入を積極化し、競争力を強化する。

同社は二〇〇八年三月に設立、今年二月から本格受注を開始した。海外二十八カ国・

百九十カ所の加工拠

点

を国内に十カ所構築する計画で、「社内外注」を自前での拠点新設、専門業者のM&Aと並ぶ柱として国内展開に加速度をつける。



ユリアン・ベイシヨア社長

「社内外注」は内製と外注の間とも呼べる位置づけ。内製の熱処理設備を技術者も含めて部門ごと買い取り、受託加工先として継続して業務に当たる。一

工拠点を国内に十カ所構築する計画で、「社内外注」を自前での拠点新設、専門業者のM&Aと並ぶ柱として国内展開に加速度をつける。